

◆鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 高塚康治 ◆編集責任者/担当 副会長 恵比木 健 ◆制作・編集 第46期ビジネスメディア委員会/委員長 柏木克仁

令和3年1月18日に開催予定であった新年例会は、新型コロナウイルス感染症拡大状況や会員の健康と安全を第一に考慮して中止となりました。元来、ご来賓の皆様やOB会員の皆様をお招きし、新年の始まりにふさわしい華やかな例会とすべきでしたが、諸般の理由により開催することが出来ずご来賓の皆様、OB会員の皆様にお会いできる数少ない機会がかなわず現役会員一同、非常に残念に思っております。

## 新入会員アトラクションの歩み (第41期～第45期、第46期披露への想い)

第46期新入会員は、感染拡大の第三波が押し寄せる先行きが見えない中、新年例会開催を信じて毎年恒例となっている新入会員アトラクションの練習に多くの時間を費やしてきた。今回の新年例会の中止で披露する機会がなくなり非常に残念ではあるが、新入会員の努力に報いるためにも、披露する予定であった第46期新入会員アトラクションを、過去5年分のアトラクションの振り返りとともに紹介する。

### ……新入会員アトラクションダイジェスト……

**第41期 『書道パフォーマンス』**  
平成28年1月18日  
米子全日空ホテル(現ANAクラウンプラザホテル米子)



米子東高等学校の先生の指導のもと、書道パフォーマンスを披露。大きな紙の上を軽快な音楽とともに踊りながらスローガンの「熱」とテーマ「未来へ繋ぐ」文字、中央会の綱領を書道で書き上げ、会場を盛り上げた。

**第44期 『ハンドベル演奏』**  
平成31年1月15日 ANAクラウンプラザホテル米子



第44期新入会員アトラクションはハンドベルの演奏であった。音階の分かれた両手のベルの組み合わせで巧みに曲を演奏する姿は、例年行われていた目を引く派手なアトラクションを伴うものではないにも関わらず、中央会らしい団結を感じさせるに十分なアトラクションであり、ベルの落ち着いた音色に会場全体が終始聞き入っていた。

**第42期 『PERFECT HUMAN』**  
平成29年1月16日  
米子全日空ホテル(現ANAクラウンプラザホテル米子)



所属企業で働く新入会員の様子や、新入会員がダンスユニット「WORLD ORDER」に扮して鳥取県西部地区の名所でダンスを行っている映像を放映した後、舞台ではこの日のために15回もの練習を重ねた歌とダンス「PERFECT HUMAN」を完璧に披露し会場の喝采を浴びた。

**第45期 『ニュージーランドマオリ族 民族舞踊ハカ』**  
令和2年1月15日 ANAクラウンプラザホテル米子



ラグビーワールドカップでも話題となったニュージーランドマオリ族の伝統的な民族舞踊であるハカが力強く披露され、新入会員に対して、これからの中央会活動に対する期待の拍手が沸き起こった。

**第43期 『太鼓演奏』**  
平成30年1月15日 スマイルホテル米子



新年の幕開けを祝うべく太鼓の演奏が行われた。新年例会に向けて芸能集団「和楽衣箱」の指導のもと練習を重ね、その磨き上げられた猛々しい太鼓の響きは会場を大いに盛り上げ、新年の門出に花を咲かせた。

**第46期 『中央会太鼓 輝勇』(予定)**

第46期新入会員アトラクションは、コロナ禍において各種イベントが中止される中、鳥取県西部で例年行われていた「がいな太鼓」が披露される場を失っており、新入会員が「がいな太鼓」を披露させて頂くことにより地域貢献できるのではないかと、という想いで取り組んだ。残念ながら新年例会は中止となったが、講師の「がいな太鼓保存会」より「曲名のように勇ましく輝いている」とお墨付きを頂いた完成度の演奏を披露させて頂く場を心待ちにしている。

### 新入会員アトラクションにかける思い

新入会員アトラクションリーダーの依陽介です。今期は米子がいな太鼓を披露させて頂きます。音の異なる太鼓、それぞれ異なったリズムパターンで演奏します。また、太鼓を打つ時の所作にもご注目ください。

新年例会での披露は出来なくなりましたが、新入会員一同、一致団結し皆様の心に響くような太鼓を打ちたいと思っておりますので宜しくお願い致します!



(記事:狩野・伊澤・石井)

# 第46期ハンサム連載『会社の「当たり前」をやめた!』



## 『会社の「当たり前」をやめた!』Vol.6

海産物に込めた熱い思いを皆様へ!  
情熱の海産物商品を日々研究し改良を続ける!

## 有限会社 マルコウ

第一編集部 下村英一(リーダー)、渡部直哉、住真介、原正史

山陰は海産物が大変豊富な地域です。そんな海産物の状況が昔とどう変わり、企業としてどう変わっていったのか有限会社マルコウの田中社長にお話を伺いました。



田中社長

一有限会社マルコウについて簡単に教えてください。

1990年、松江市鹿島町御津(みつ)にいわしの加工場を作り会社を設立した。店舗については安来の道の駅に5年前から店を出している。その他、鹿島町にて2店舗(地元の人向け)営業している。

一会社設立した当初と現在を比べて、海産物の水揚げ状況がどう変わってきているのか教えてください。

当時、恵曇漁港では日々いわしの水揚げで大変賑わっていた。いわしを獲る船団が7棟あり、豊漁の時期が続いていた。ピーク時には歩く場所がないと言っていい程の量でしたが、年々いわしが獲れなくなり、船団が7棟から5棟へ、5棟から3棟へ、2014年には0棟となってしまった。それだけいわしが獲れなくなってしまったということだ。

一海産物を扱う企業として、経営していく上で何が大変でしょうか?

1番は原料の仕入れ。海産物というのは毎年状況が変わる。シーズンによって水揚げ量や価格も日々変わってくる為、仕事として非常に難しいと思う。安定して獲れてくれれば商売もしやすいが、年間を通じて安定した売上を作っていくことはなかなか厳しい。そして従業員の問題。海産物の製造・加工業者というのはなかなか働き手が少ない。うちの会社に限らず、海産物を扱う企業はどこも同じ問題を抱えていると思う。

一会社のメインとなる原料が年々少なくなり、会社を存続させる為にどのように対応されたのでしょうか?

当時はいわし1本で商売をしており、築地や大阪の市場へ毎日出荷していた。年々いわしの水揚げ量が減り、市場へ出荷することが出来なくなったので、地元のスーパーに鮮魚類を納品することを考えた。はじめは相手にしてもらえず苦労したが、持ち前の明るさとセールストークで実際にスーパーの店頭で立ち販売をしていた。数年続けたことにより正式に取引してもらえるようになり、地元のスーパーへの販路が出来た。同時に「いわしが獲れて当たり前」の時代は終わった。会社を存続させる為にはいわし以外の事も考えないといけない。いわしの他に水揚げされるカレイやさば、のどぐろを原料にした加工品作りに着目した。今後、いわし以外の魚も今まで通り水揚げがあるとは限らない。その日にある魚で加工品を作り商売することは、これから先も継続して考えていかないとけない課題である。

一海産物の加工品というのは具体的に何でしょうか?何に力をいれていくことにしたのでしょうか?そしてそこから新しい価値が生まれたのでしょうか?

加工品の1つ目に「鯖の塩辛」がある。昔から各家庭で鯖の塩辛を作っており、味と知識には自信もあった為、家庭用から一般商品へと改良を続けた。原材料、製造方法、無添加にこだわり、情熱を持って製造している。原材料は鯖

と塩のみを使用しており、無添加にこだわっている。また、鯖の塩辛は発酵しないと美味しくない。今後も発酵させる製造方法にはこだわっていきたい。塩についても色々な塩を試し、日々研究している。

こだわって作っていた成果もあり、県の水産課の方から紹介されて、弊社の鯖の塩辛が漫画「美味しんぼ」に掲載されることになった。掲載されてからは順調に売上も伸び、多方面から声をかけて頂けるようになった。また美味しんぼの取材を受けた際、鯖の塩辛が発酵して液体になるのが魚醤だということが、あるスタッフの一言でわかった。それまで捨てていた液体が、今となっては「鯖魚醤」として商品となっている。



加工品の2つ目に「燻製商品」がある。その日に水揚げされた魚を加工して燻製を

作っている。あじ、さば、いわしはもちろん、飛魚やエイ等、水揚げされる海産物は何でも加工し燻製にしている。また、小さくて価格がつきにくい魚を使い加工品にすることで、今までにはない珍しく変わった商品が完成し、色々な売店で取り扱ってもらえるようになった。燻製商品はこれから力を入れていきたい。

こうして視点や捉え方を変えることで、今まで考えもしていなかった新たな商品を創り出すことが出来た。なんでもやってみたり、話してみたりすることによって新しい価値が生まれることがあると痛感した。

一従業員が少ないという問題については何か取り組まれたのでしょうか?

大きい会社であれば外国人を雇ったりされるでしょうが、うちには難しい。そこで私は障がい者を積極的に雇用し、一緒に物作りをするという新しいビジネスを8年前から始めている。はじめは実習先として養護学校から受け入れたのがきっかけでした。実習生が真面目に働く姿を見て、地域社会への貢献、そして自社の貴重な戦力になると思った。また、障がいのある方がいきいきと働ける環境を整え、雇用の安定化を進めながら、働いていただき、一企業として社会に貢献できる体制づくりを目指していきたい。現在では12名いますが、店長や責任者を任せられる従業員が多数いるのが実態です。新たな視点で見つめ直したことで従業員の問題も緩和されつつある。そして他社には出来ない細かい作業や根気のいる作業も協同し合う組織体制が創られ、会社にとって大きな強みとなった。

一今後の目標や展望について

他社と協力もしながら通販やイベント等にも力を入れていきたい。また、他社に出来ない加工品を作り、価格競争ではなく、付加価値のあるこだわった商品で勝負していきたい!

**【インタビューを終えて】** この度取材をし「商品のことについて常に考え研究心を持つ」ということ、「商品に対して情熱と愛情を持つ」ということの重要性を強く感じました。自社のことに置き換え、今まで当たり前に入荷していた商品や原料が一切なくなってしまった時、どのように考え、決断するべきなのかを真剣に考えさせられる機会となりました。視点を変えて考えてみることで、新商品や新発見、企業にとっての強みが生まれ、いくつもの武器を創出することが出来たと思えました。また、逆境の中でもポジティブに考え、出来る事をしっかりとやっていく。まさに今のコロナ禍の対応と類似しているようにも感じました。

最後に、情熱を持って作られた商品こそ、お客様という最大の価値が生まれるのではないのでしょうか。

# 中央会事務局紹介



我々現役会員及びOB会員が日ごろお世話になっている、当会及び鳥取県中小企業団体中央会(以下「団体中央会」)の事務局の森本米子支所長及び西村様にお話を伺いました。

## —事務局の普段の業務を教えてください。

団体中央会及び当会会員のサポートを行っています。団体中央会については、会員組合の組織の運営、管理、例えば総会や理事会開催のご相談や、決算関係の書類のお手伝い等を行っています。

## —当会の事務局の業務を教えてください。

現役会員及びOB会員へのハンサムの送付、経理処理や会計報告、例会の準備(領収書、例会グッズ等)、総会、新年例会等の案内や回答の処理、慶弔対応等です。

## —普段当会についてどのように見ておられますか。

ビジネスについてだけでなく、お地蔵さまやトライアスロンのような地域振興にも踏み込んで有意義な活動をされていると思います。最近では、新型コロナウイルス感染拡大のため活動が制限されたり、昨年度18名もの方が卒会されて大変な状況にあり、気にかけています。

## —当会会員に対して伝えたいことを教えてください。

(森本支所長)赴任してから皆様になかなかご挨拶できず、この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルスという大変な状況下で、会としてだけでなく、会員企業の皆様へのサポートもしたいと思っておりますので、お困りごとがあれば気軽に声をかけていただければと思います。

(ビジネスメディア委員会:住真介)

## トライアスロン実行委員長挨拶

田中健雄監事(司法書士法人田中事務所 代表社員)

第40回全日本トライアスロン皆生大会、中央会での実行委員長を拝命致しました。継続実行委員会の田中健雄です。トライアスロンの活動は、「社会に奉仕し、お互いの友愛を深める」の綱領を文字通り実践できる継続事業です。

40回記念大会となりますが、コロナ禍ゆえに、これまでぼんやりしていた多くの課題が顕在化される大会になると思います。その課題に対応する事で、蓄積された問題が一気に解決できる糸口となる可能性も秘めています。歴史ある継続事業を次に繋いでいけるよう、そして中央会最後の務めを果たすべく全集中の呼吸で取り組んで参りますので、皆様方のお力添えを宜しくお願い申し上げます。



## T.S.Cへの情熱 ~卒会者より~

繁浪誠治(株式会社VERY営業部長)

いつもお世話になっております。第40期入会の繁浪誠治です。早いものであつという間の6年間でした。今はとても寂しい気持ちと残念な気持ちでいっぱいです。

入会当初は、本音を言うと会に参加するのに気が進まないことがありましたが、年を追うごとに仲間が増えていき、行くのがとても楽しみに変わりました。中央会で出会った仲間は一生の宝物です。

私の中央会生活は体調の問題もありましたが、いつも外野だったように思います。今思えば、とても残念な部分です。もっと内野、中央会のお役に立てられるような行動がもう少しできたように思います。

後輩の皆様、私のように残念な気持ちが残る中央会生活にしないでくださいね。たくさんの仲間を作ってください。6年間ありがとうございました。



会長連載

## 勇気ある一步

～クールヘッド・ホットハート～

第46期 会長 高塚 康治

皆さん、改めましてこんばんは。皆さんのお手元にハンサムが届くころ、緊急事態宣言は解除されていますでしょうか?鳥取県コロナ警報は解除されていますでしょうか?苦しい決断の1月となり、46期になって初めて事業を中止いたしました。参加を楽しみにされておられましたOB会員の皆さま、事業を準備していただいていた総務委員会の皆さま、そして何より本番当日のために太鼓を一生懸命練習していただいていた新入会員の皆さま、大変申し訳ございませんでした。「仕方がない」とは言っていたのですが、悔しい中止となりました。しかし下を向くことなく、一歩でも前に進み46期まだまだ歩んで参りますのでよろしくお願いたします!

## 仕事の流儀

原 正史(原まさふみ行政書士事務所 代表)



原まさふみ行政書士事務所は、昨年の9月で開業5周年を迎えました。行政書士を、すごく粗く説明すると、「役所手続き・書類作成の代行」を生業としている仕事です。例えば、事業に関する許可申請や、補助金の交付申請も行います。「あなたの街の法律家」というキャッチを好んで使っておりますが、それだけ、お手伝いできる業務が多く、皆さまの事業や

生活の一場で、何かしらのお役に立てるシーンを見つけることができます。よくある依頼の一つに、建設業の許可申請というものがあります。変わった依頼では、小学校のPTAの会則を作ったこともあります。

私が仕事で一番気を付けていることは、お客様とのやり取りです。お話は腰を折らず最後まで聞く、専門用語はなるべくわかりやすい言葉に言い換えて説明する、あと、できる限りお客様のところへお伺いする。また、業務を円滑に行う上で、役所での振る舞いにも気を付けています。役所ではいくら腹を立てても絶対怒りません。

資格を持っていることで、「先生」と呼ばれることもありますが、私自身は、書類の作成を代行する、いちサービス業であるという自覚を忘れず、お客様の理想の実現とよりよい生活のためのサポート役に徹していきたいと思っています。

## 現役ナンバー1

川原 聡司

(米子ガス株式会社 維持グループ副グループ長)



私は、この体形に似合わずフルマラソンを趣味としています。マラソンは辛くエライイメージがあり、始める方はまずいないと思います。魅力は何かといえば、「人の支えを実感」、「普段出来ない事をやれて達成感までついてくる」にあると思います。

私が始めたきっかけは、友人に誘われたリレーマラソンで、コースが厳しく泣きそうな時に医療スタッフの方に声を掛けられ、人に支えられる実感に感動したことから始まります。都市マラソンは都心を完全に封鎖しますので普段走れない(歩けない)場所を走りますので、いつもと違った都市の顔も眺めることができます。沿道の観客も様々な方(自作エイド、メイド、ベリーダンサー等々)がおられその都度、ありがたさを感じます。ゴールの際は、達成感はもちろん、それ迄の出来事が走馬灯のように駆け巡り、関わる方に感謝しか思い浮かびません。こんな感じなかなか味わえません。

マラソンは積重ねるスポーツです。大会に向けて努力したことが、本当に苦しい30キロ以降で結果となって反映します。だから、練習・食事・体のケアなどできる限りの準備をします。残念ながら昨今の禍により大会など競技の存続が難しい時期です。だからこそ晴れることを信じてながら6回目の大会を目指しています。

### 所属企業変更のお知らせ

竹谷友成 会員

(変更前) 有限会社竹谷保険事務所

(変更後) 米子鉄工サービス有限会社 営業部長

鳥取県米子市夜見町2924番地3

電話 29-1780 FAX 29-8634

### 2月役員会報告

令和3年2月1日(月)米子市公会堂 集会室6・7にて2月役員会が開催されました。議題は以下の通りです。

- 新年例会報告の件
- 鳥取県中小企業青年中央会の件
- 第6回お地蔵さまフェスティバルの件
- 次年度会長候補指名推薦についての上程書
- 次年度県会長候補指名推薦についての上程書
- 2月例会開催の審議
- 3月例会開催の協議

※なお、詳細については各委員長までご確認ください。

### 編集後記

緊急事態宣言が各地で発令され、鳥取県西部もクラスターが発生する等事態が深刻化し、未だ状況改善の見通しが立たない状況が続いています。危機的状況をなんとか会員同士助け合って乗り越え、新しい時代を迎えられればと思います。

(ビジネスメディア委員会:住真介)